

良城だからこそ防災教育

昨日夜、福岡県の朝倉市周辺で数十年に一度の大雨が降り、大きな災害が起きています。皆さんも、ニュースで恐ろしい濁流の映像を見てぞっとされたことと思います。台風3号が去り、ほっとしたところでのまさかの大雨となり、本当にいつどんな災害が起きるか分からない時代になっていると感じます。昨日は島根でも相当な雨が降りました。

今年の梅雨は、本県ではまだ雨がそれほど降らず被害は起きていませんが、本県は土砂災害の危険性が大変高く、指定警戒区域は島根、長野に次いで全国第3位の危険な県なのです。8年前の7月の防府や4年前の7月の萩市の甚大な土砂災害は記憶に新しいと思います。

では、吉敷地域の危険性はどうか？

以前からお話ししていますが、吉敷地区は自然災害の危険性の高い地域と言っています。地震による津波の被害はありませんが、県庁バイパス沿いを走る山口盆地北西縁断層と吉敷川断層が交差する地域です。土砂災害の危険性は高く、また稲葉団地周辺は低地で浸水被害も想定されています。(裏面のマップ参照)

昨日の朝倉市のような想定外の大雨が鳳凰山周辺に降ったら、急流である吉敷川が氾濫し、それにつながる小河川も内水氾濫、木崎川周辺の谷も土砂災害が発生するかもしれません。

そうなったら、地域の方々は、吉敷交流センターよりも高台にある本校体育館に続々と避難されてくるでしょう。数十日間は体育館に寝泊まりされることになります。防府市の災害は夏休み中でしたから、授業には直接の影響はありませんでしたが、授業日であったら、私たち教職員も直接の対応をする必要があります。

このような状況ですから、本校でも今後、



避難の小学校孤立、震える子ども（朝倉市立松末小）

防災教育を是非、進めていきましょう。

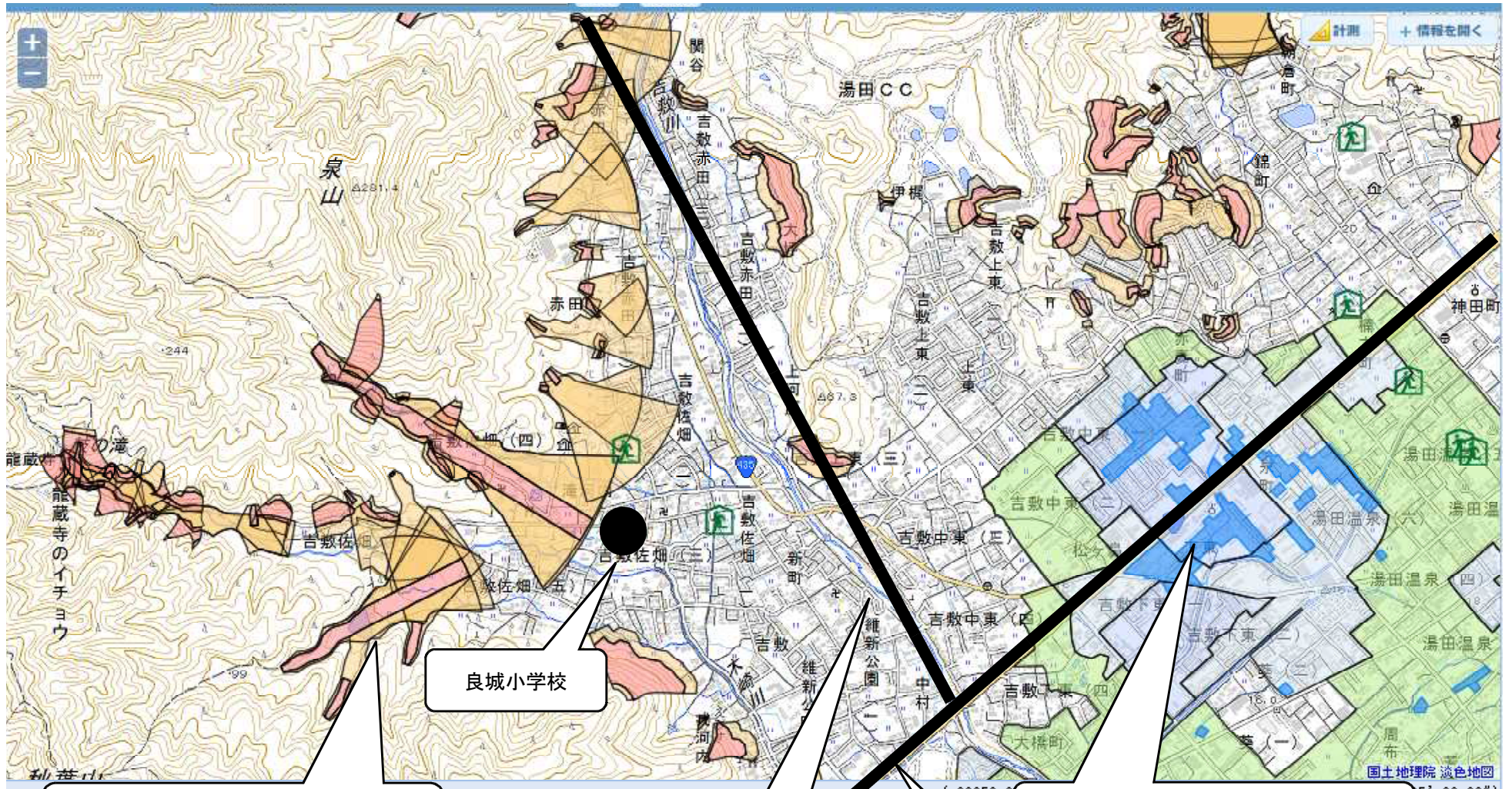
避難所としての訓練だけでなく、中学年や高学年の理科で、土砂災害や洪水のメカニズムと危険性を地元で即して学び、社会科で地域の防災の仕組みと取組を学ぶ。講師は地域の方々や市の防災担当者、山口大学の防災専門家。中でも、山大には、県全体で防災の出前授業を行っている先生方が多数おられ、私も顔見知りです。

また、本県は地震が少ないと言われていますが、子どもたちは今後日本各地に散らばっていきます。次の大震災（東南海や南海沖地震）は近いうちに必ず起きます。その時に、良城小出身だったから、地震に関する災害安全教育を受けなかったことが原因で死んでしまったという悲劇が起こらないように、日本の教師の責務として地震に関する防災教育も実施しましょう。

具体的には、どこかの学年の総合的な学習の必須テーマとしてカリキュラム化することも必要ではないかと思います。

夏休みの間に安全教育担当、危機管理担当、総合的な学習担当者等で検討してほしいと思います。

良城小だからこそ防災教育は、コミスクの取組としても大変、魅力的な学習です。地域の力も借りて実施していきましょう。



土砂災害危険箇所

吉敷川断層

浸水想定箇所

山口盆地北西縁断層

吉敷地区の災害危険マップ

良城小学校